

2017年 4月28日(金)

午後 1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせしました。

ただいまより平成29年 5月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思いますと考えております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切っていただくようお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。

それでは、市長、よろしく申し上げます。

【市長】 それでは、5月の定例記者会見ということで、よろしく申し上げます。

先月は、景観刷新事業の選定といううれしいニュースがあったんですけども、今月も北前船寄港地・船主集落の日本遺産認定ということで情報が入ってきております。敦賀市をますます活性化するために頑張っていきたいと考えております。

また一方で、火事が連続して発生しておりますので、ゴールデンウィークに入りますけれども、皆さん、火事について、火の元について十分に気をつけていただきますようによろしくお願いいたします。

以上でございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、事業発表をお願いいたします。

【市長】 発表項目は6個あります。順番に行きます。

1つは、北前船寄港地・船主集落の日本遺産認定についてであります。

関係11自治体で文化庁へ申請いたしました「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」が本日、4月28日に行われております認定証交付式において日本遺産に認定されました。当市を初め関係自治体では、本日の日本遺産認定に向け、北前船寄港地フォーラムを幾度となく重ね、北前船寄港地及び船主集落への理解や今回認定された関係自治体同士の連携を深めてまいりました。本日の日本遺産認定をきっかけに、より多くの方に敦賀を訪れていただき、本市の観光及び産業の活性化を図るとともに、今後も関係自治体と連携を密にし、北前船の文化を国内外に発信していければと考えております。

また、この後15時30分より、南越前町の北前船主の館・右近家前におきまして、岩倉南越前町長とともに日本遺産認定記念セレモニーを実施いたします。くす玉開披や河野保育園児の歌披露等を予定しておりますので、ぜひ取材にご協力いただければと思います。

続きまして、第35回「親子のフェスティバル」開催についてであります。

親子のふれあい、仲間とのふれあい、地域とのふれあい、自然とのふれあいを通じて青少年の健全育成を図ることを目的に、5月21日日曜日午前9時から午後3時まで、きらめきみなと館とその周辺において第35回「親子のフェスティバル」を開催します。イベントホールでは、オープニング、ブラスバンド演奏、開会式の後、和太鼓、国体ダンスなどが

催されるとともに、おもしろ体験コーナー、むかしの遊びコーナーなどが、また周辺駐車場部分では、働く車コーナー、飲食コーナー、また船舶の乗船などが催されます。船につきましては、船舶は国土交通省の「まつかぜ」の敦賀港湾周遊、また自衛隊の掃海艇「すがしま」「のとじま」の乗船、それから敦賀海上保安部の巡視船「えちぜん」の乗船ができます。なお、「まつかぜ」周遊は事前に国土交通省の敦賀港湾事務所への電話申し込みが必要となっているということです。

また今回、スーパーカーとクラシックカーの滋賀県から敦賀までのラリーがあるそうなんですけれども、そのゴール地点として親子のフェスティバルの会場が指定されておりますので、約50台の車が午後から集結するということでもありますので、また来場の皆様にごらんいただきまして、またご家族で1日楽しんでいただきたいと思います。

雨天や強風などの場合は催し物が中止や変更になるというふうに伺っていますので、ご了承ください。

3つ目ですけれども、市民とのざぶとん会の開催についてであります。

市民の皆さんのまちづくりに関するご意見を直接お聞きするため、市民とのざぶとん会を市内11カ所で開催します。日程は、配付させていただきました資料のとおりとなっております。どうぞよろしくお祈いします。

4つ目は、庁舎建替えに係る市民説明会の開催についてであります。

敦賀市庁舎の建替えに関し、5月9日火曜日から19日金曜までの期間におきまして市内10カ所で市民説明会を実施いたします。説明内容は、建替えの経緯と現時点で可能性のある建設候補地として現所在地案とプラザ萬象敷地案のメリット、デメリットをお示しし、アンケートを実施するなど、市民の皆様のご意見をお聞きしたいと考えておりますので、どうぞ皆さんよろしくお祈いします。

5点目につきましては、クールビズの実施についてであります。

平成17年度より実施しておりますクールビズにつきましては、節電の必要性等を踏まえ、5月1日より実施いたします。なお、終了日は9月30日土曜日といたします。

最後に、福井しあわせ元気国体・大会開催500日前記念イベントの開催についてであります。

福井しあわせ元気国体の敦賀市開催競技、水泳競技まで残り500日となる5月3日水曜日に、500日前記念イベントをこどもの国を会場に行います。内容は、こどもの国の施設内に国体マスコットキャラクターはぴりゅうの装飾、市民に募集しているはぴねすダンス応援部によるダンスの披露、昭和43年の福井国体回顧展、プラネタリウムでの国体動画の放映等、PRを行います。

ゴールデンウィークですので、市内外からたくさんの家族連れの方に来ていただきまして国体をPRし、機運の醸成につなげてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお祈いします。

発表項目は以上です。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思います。

最初に、幹事社さん、お祈いします。

【記者】 2点、質問させていただきます。

まず1点目が日本遺産ですけれども、多くの方に敦賀に来ていただきたいということなんですけれども、具体的にどのようにして国内外に発信をして、どのようにして地域の活性化を図ろうとされているのか。何かプランがあれば教えていただきたいですし、こういうふうにしたいというふわっとしたものでも結構なので、お願いします。

【市長】 北前船の日本遺産認定、本当にありがたいと思っておりますけれども、敦賀市と南越前町、両市町でタッグを組もうということを考えています。敦賀は北前船の寄港地といいましても港が近代化しておりまして、なかなかその面影がつかめないということがありますので、敦賀は北前船の残っているものとするので、昆布がありますので、昆布を広めていきたいなと思っています。そういう意味では、南越前町は右近家、中村家などが残っておりますので、右近家、中村家の船主集落を見ていただきまして、そこで当時を思い起こしていただく。また、敦賀に来て物を買っていただく。そういう組み合わせで広めていきたいなというふうに思っています。

【記者】 敦賀の場合、昆布を広めていきたいということですが、具体的にはどういうふうにしてやるのでしょうか。

【市長】 北前船をPRしながら、そこで敦賀の昆布、おぼろ昆布とか独特の製品ですし国内のシェアも高いですので、80%ということですので、そういうことを皆さんに知っていただきながら広めていきたいと思っています。

【副市長】 ちょっと補足させていただきますと、きょうから大阪のインテックス大阪で、食・博覧会大阪というのが開催されております。そこには石川県、今回認定されましたけれども加賀市、それから南越前町、私ども敦賀市、今回漏れておりますが坂井市・三国、4市町が一緒になって共同のブースを設けまして、各地の特産品とかをアピールすることとしております。

また、9月2日と10月14日にダイヤモンド・プリンセスが入港いたしますが、特に10月14、15日にはイベントを開催することにしておりまして、きらめきみなと館を中心に、今回認定を受けました他の10市町等も含めまして物産展とかそういったものを開催していきたいというふうに考えております。

具体的には、5月11日に今回認定されました11の市町が集まりまして協議会をつくりまして、細かいといいますか具体的な内容については、今後、11市町協力して何をやっていくか検討、協議していくこととしております。

以上です。

【記者】 追加で、5月11日に協議会というのは、どちらで開くんですか。

【副市長】 淡路島です。

【記者】 淡路島は今回、入ってないですね。

【副市長】 入っておりませんが、北前船の寄港地のフォーラムとか26市町でやっております。そういったところで、今回、26市町のフォーラムが淡路島で開催されますので、この機会を利用してこの11市町の協議会を立ち上げようということでございます。

【記者】 淡路島の何市になりますか。

【副市長】 後ほど。済みません。

【記者】 庁舎のほうで1点お伺いしたいんですけれども、市民説明会ですか、これは取材が可能なのかどうか。それだけ教えてください。

【市長】 可能です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問がありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 日本遺産に関してですけれども、市長おっしゃったように、敦賀市は遺構がほとんどないということで、昆布を売り出すにしても何らかの北前船と昆布をつなぐような説明とか職人さんがやっているような場所が必要だと思うんですが、それはさかな街とかで勝手にやってもらうというのか、それとも市として何か整備する考えとかあるんですか。

【市長】 昆布組合さんとか相談になると思うんですけれども、昆布職人さんが敦賀市にはいらっしやいますので、それは非常に珍しいことだと思っっているんです。ですから、昆布をかいている姿とかを見せながら理解を深めていけたらなというふうに思っています。

場所を設けるのに、今から相談なんですけれども。ということでございます。

前に来ていただいたときに、昆布をかく姿を見ていただいたんですけれども行楽の皆さんに。非常に感動していただきましたので、そういうことができたかなと思っっています。

【記者】 日本遺産なんですけれども、今回認定で50件を超えて、将来的に100件ほどになるかと思うんですけれども、日本遺産認定はありがたいんでしょうけれども、逆に、どこもここも日本遺産になっているというような状況の中で、その中でどうやって誘客に結びつけていくか。認定されたからそれでというんじゃなくて、その後、自治体にどんな取り組みが求められると思われませんか。

【市長】 今回、11市町で認定を受けましたので、そこのネットワークを強化していくことが必要になってくると思っます。そういう意味では、日本海側の流れということがピックアップされますし、また、北前船という素材は非常に海外のインバウンドに関しては有効なテーマじゃないかというふうに思っっています。もう一つ、敦賀は昔から港がありますので、大陸との貿易もありましたから、対岸にも知ってもらって理解を深めていただけるといいなというふうに思っっています。

【記者】 北前船の中でということもあるんですけれども、越前焼とかほかの日本遺産、それこそ隣とか連携してというお考えはいかがですか。日本遺産同士で何か食とか、そういうテーマとか。

【市長】 認定されました11市町がありますので、まだ今からそこの加わっているほかの市町もありますので、そこのネットワークがまず最初かなと思っます。

【記者】 結構、日本遺産は世界遺産申請の条件みたいになっている現実があると思うんですけれども、世界遺産を目指されるお考えはございますか。

【市長】 私の中では今ございません。皆さんの中にはあるかもしれません。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へに行きたいと思っます。こちらも幹事さん、よろしくお願ひします。

【記者】 もんじゅの件でお伺ひします。

きょう夕方に文科省の担当者の方が来られて、恐らく文科省のチームの体制であるとか政府の体制であるとか、そういったのを説明されるんだと思うんですけれども、そこはそのときに市長がお話しされると思うのでいいんですけれども、機構から、もんじゅの基本的な廃炉の計画なんですけれども、もともと4月がめどだったかと思うんですが、もう不

可能になっているんですけれども、まずそこが遅れているということについて、どのように思われるか教えてください。

【市長】 4月中を目指すということでありましたけれども、向こうで出された計画ですので、できるだけ早くしていただきたいと思いますが、しっかりした計画を出していただくというのが一番大事だと思います。早く出してほしいと思っています。

【記者】 恐らく計画の中では、燃料の搬出、取り出しなんかはいつから始めるか、何年ぐらいかかるというのはあると思うんですけれども、敷地外に出すのか出さないのかという部分は恐らく触れられないと思われるんですけれども、何かそういうことを言っているんですけれども、その辺はどのように思われますか。

【市長】 たらればになってしまうので、なかなか答えにくいですが、当然、私、最初に求めていますのは、敷地外に搬出ということを行っていますので、その時期はできるだけ早く示していただきたいと思っています。

【記者】 それは、基本的な計画の中で示されなくても、今後、正式な廃止措置計画なんかで示されればよいということでしょうか。

【市長】 今そこがわからないので、わかりませんから、たらればになってしまうので答えられないんですけれども、できるだけ早く出していただきたいというふうに思っています。

【記者】 確認ですが、基本的な計画で書かれなくてもいいということですか。

【市長】 廃止措置の中の基本的な計画ですよ。今、燃料取り出しに5年半ほどというふうに聞いていますので、そういうことを含めて、どういうことが示されるかというのをやっぱり見て、それから判断したいと思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。ご質問ありましたら挙手をお願いします。

【記者】 市役所の建替えの件なんですけど、ちょっと確認したいんですが、去年の10月にここで建替え濃厚となって、先日の議会で市長は萬象の案を出されましたが、萬象が出た経緯というのは市長の発案なんですか。

【市長】 そうですね。私の発案ですね。

【記者】 その意図は。

【市長】 検討項目の一つとして、いろんな場所があると思いますけれども、敦賀市の将来を考えると、候補地としていろいろ考えた上でどうかということ、俎上に上げるべきだというふうに思いました。

【記者】 私個人としては、複数、ここ以外、萬象とかいろんな案があって市民が議論すればいいと思うんですが、ただ、国の財政措置を得るためには9月末までに決めるという方針じゃないですか。それが市民の意見は9日からの説明会で出ると思うんですが、先日の議会の委員会でも余りに拙速だという意見がほぼ大勢を占めたんですが、それについて市長はどう受けとめていますか。

【市長】 限られた時間の中でベストを尽くすべきだというふうに思っていますので、国の財政措置がある以上は、それに乗っかるように努力したいと思っておりますし、その中で一番いい方法というのを探していきたいと思っています。

【記者】 市長としては、国の財政措置を得る前提というのは譲れないという思いですか。

【市長】 いや、やっぱり優先順位がありますから、一番大事なのは敦賀市にとってどこが一番いい場所なのかというのが1つ目だと思います。その次に、2番目に財政措置を得るというのが目標になろうかと思っています。

【記者】 じゃ、一番いい場所、市民の間でも議論していく中で、9月末までに結論がまとまらないということも、それはもう仕方がないと。

【市長】 まとまるように努力をしていくということで、市民説明会もやりますので、まとめていきたいと思っています。

【記者】 ただ、どうですか。あと半年、短くないですか、9月までって。

【市長】 私の中では、そんなに短い時間じゃないと思っているんです。ですから、どうしようと考えたときに、真剣に考えれば、そんなに長くかかるものなのかなということもありますけれども。

ですから場所を決めて、民地があって、個人の土地があって交渉しなくてはいけないとか、そういうふうになってくるとちょっとエンドがわからなくなってきましたけれども、そうじゃなければ、ある程度のことは明らかにできるんじゃないかと思っています。

【記者】 市長は萬象に移転したいという思いなんですよ。

【市長】 私は、広く皆さんの意見を聞くという立場にあります。

【記者】 じゃ今選挙して争点になるとしたら、どちらを主張しますか。

【市長】 それは、たればなのでお答えできません。

【記者】 じゃ別の質問で、国の財政措置の要綱はもう出ているんですか、詳しいのは。

【市長】 それは担当のほうで。

【総務部長】 4月の16日だったと思うんですけども、概要版という形は出ております。

【記者】 正式に平成32年度末までに完成でしたっけ。

【総務部長】 はい。29年から32年度末ということですよ。

【記者】 完成が遅れてもお金は措置しますよというのはないんですかね、今のところ。

【総務部長】 現時点では、そういう話は出ておりません。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 今と同じ庁舎の関連でお伺いします。もう一度確認なんですけれども、市長は財政措置が得られることがまず第一というよりも候補地が一番どこがいいか決まるのが第一だとおっしゃったんですけども、議会では移転を検討する場合は9月までに決めるということはほぼ不可能だという意見が大勢でして、その場合、移転も含めてどこがいいのかを本当に議論する場合、9月以降も議論を継続してもいいというお考えなのでしょうか。

【市長】 私の考え自体は、9月までに移転場所を決めたいというのが第一義ですので、それに向けてできるだけ努力をしていくというところであります。議会の皆さんのご意見とすると、それまでに検討する、判断するための資料が出てくるかということになろうかと思っていますので、できるだけそういうものをそろえていきたいというふうに思っています。

【記者】 先日の議会の特別委員会でもいろいろ意見が出たんですけども、特に移転案について、デメリットについてはいろいろ具体的に出ているわけですね。周辺の道路整備が未整備であるとか、第二萬象を建てないといけなと。それにもお金かかるわけですし。デメリットが具体的であるにもかかわらず、移転のほうのメリットが中心市街地の活性化であるとか漠然としているんじゃないかと。もう少しきちんと比べられるような素材を出

して議論しないと、市民説明会でも余り市民の方もわかりにくいと思うんですが、その辺はいかがですか。

【市長】 メリット、デメリットについては、説明する内容は今の状態で十分にわかりやすくなっているというふうに思っております。

【記者】 庁舎の関連で、今の質問に関連して、例えば中心市街地の活性化につながるという明確な根拠というのは、例えばどういうものが挙げられますか。

【市長】 今、アンケートが手元にないので、まとめたやつがないのであれですが、部長のほうから答えます。

【総務部長】 まず最初に、先ほどの質問で、4月16日というような形で私、出た日付を申し上げたんですが、申しわけございません、4月3日付でございましたので訂正させていただきます。

次に、今いただいたご質問でございますが、メリットということの面では、駅前商店街とか本町2丁目商店街等の商業集積エリアに近接いたしまして、中心市街地の活性化が期待されるというような形を一つのメリットと考えているところでございます。またもう1点といたしますと、駅周辺エリアにも近接することによって、コミュニティバス等については公共交通機関は駅のほうを中心に発着になりますので、そういった面での利用もしやすいのではないかとこのをメリットとしているところでございます。

【記者】 具体的に、中心市街地活性化、移した場合に近隣に商店街が近いからということだけの理由で、具体的にどう影響するかというものが示されないと市民としては判断できないという声は、議員の方も結構声を上げられているので、その辺は示していくべきなんじゃないかと思いますが、それについてはどうお考えですか。

【総務部長】 今後の説明会の中でも、できるだけ市民の方が理解しやすいような説明の仕方をしていきたいということで検討もしているところでございます。

【記者】 もう1点だけ。庁舎が移った場合の市役所周辺地域への飲食店とかへの影響という声、指摘する声もあるんですが、それについては何かデータとか素材を示す考えはありますか。

【総務部長】 経済的な影響という面のことでないかと思うんですが、それにいたしましても、今そういった資料を得るためのバックデータの物的なものについて、どういったことが出るか、今現在検討させていただいているところでございます。ただ、そういうものができるかどうかについては、まだはっきりと

【記者】 市庁舎の建替えに関連して、9日から住民説明会があるんですが、市民にアンケートをとって、たしかどれが一番適地かみたいな質問を聞くような形だと思っておりますが、そのアンケートの調査結果をもとに、一番多かった案を市長としては建替え地の案とするのか、それとも選考委員会みたいなものをつくるので、さらにそこでもんでやるのか。アンケートの生かし方というんですかね、それをはっきりお伺いしたいなと思っております。

【市長】 私の考え方になりますけれども、アンケートにつきましては、市民説明会というのは一番大事な部分だと思っています。皆さんに、こういうことで移転を考えていますよ、もしくは候補地を考えていますよということを知っていただくのが一番大事なのかなと。その中でどんな反応があるのかというのをアンケートとして知りたいんですけれども、そのアンケートは一つの参考とさせていただきますいなと思っています。

【記者】 一つ参考ということは、多いほうの案をとるというわけでもないということな
んですか。

【市長】 AとかBとか白黒つけるのか、それともどちらでもいいのか、どういう意識が
あるのかというのが一つありますので、そのアンケートをもってどうしますということは
言えないかなと思っています。

【記者】 それは結果が出てから考えるということになるということですか。

【市長】 十分大事な参考要素にはさせていただこうとしております。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして5月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後2時2分 終了